

平成27年8月 守口市教育委員会臨時会の概要

○ 日 時 平成27年8月20日(木) 午前9時30分～午後4時30分

○ 場 所 守口市役所 1号別館3階 第1委員会室

○ 出席者

教育委員

委員長 渡 邊 一 郎

委員長職務代理者 榎 原 恵 理 子

委 員 江 端 源 治

委 員 橋 爪 利 明

教育長 首 藤 修 一

事務局

教育次長兼管理部長 小浜 利彦 指導部長 水田 広茂

総務課長 藤本 淳司 学校教育課長 廣部 孝徳

教育センター長 吉川 弘美 ほか担当職員

○ 審議内容

議案第32号 平成28年度使用守口市立中学校教科用図書の採択について

【説明要旨】

○事務局 平成28年度使用中学校教科用図書について、15種目それぞれの教科書について守口市教科用図書選定委員会を経て、今臨時会において採択に臨む。

答申の作成に当たっては、まず教育委員長からの諮問にある守口の教科書採択における基本的な五つの視点、①学力向上につながる教科書、②活用型学力を重視した教科書、③言語活動を充実した教科書、④ICTを主体的、積極的に活用できる教科書、⑤9年間の一貫した学びのつながりを図れる教科書という観点と守口市の子どもたちの実態や地域性も十分考慮をした。また、調査員が調査研究を行った調査報告書を十分に活用し、さらに学校や教育研究会の意見、府の選定資料も踏まえ、これらを総合的に協議し答申を作成、提出した。

なお、小学校教科15種目66の発行者の教科書について審議をすることとなり、膨大

なものになることから、原則的には、平成27年7月15日に受理をした守口市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会」の答申を尊重しながら、最もふさわしいと答申をされた教科書の中から審議をしていくものとした。委員各位がこれまで調査をされた中で、他の教科書についても審議をしてほしいという提案があった場合には、その教科書も加えて審議を行い、最終的には各種目ごとに1種目を決定していく。

●国語

答申にある教育出版と光村図書、委員より推薦のあった東京書籍の3つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

事務局 教育出版についてですが、各教科の教材の冒頭に目標設定、目標という明記があります。そして、1年生の教科書26ページをご覧くださいますと、読む教材「みちしるべ」がございます。さらに、1年生の336ページをご覧くださいますと、「学習に必要な用語」がまとめられており、調べやすく、またポイントが理解しやすくなっております。

また、1年生の教科書279ページをご覧くださいますと、「言葉の自習室」という「資料」ページがあり、自主学習にも活かすことができるようになっています。

光村図書については、生徒の興味を引くテーマが取り上げられ、バランスよくさまざまなジャンルを掲載しております。例えば、1年生の96ページをご覧くださいますと、文学教材では、生徒と等身大の設定から読み進められるような工夫がなされております。

さらに、1年生の128ページ等をご覧くださいますと、スピーチ、グループディスカッションなど、「話す・聞く」分野での活動、観点を決めて書くなど、「書く」分野での活動も充実しております。

また、1年生の59ページをご覧ください。他教科に活かす、生活に活かすなど、身につけた力を活かせる「実の場」が明記されております。

東京書籍につきましては、言葉の力を鍛えることを第一の目標として豊富な教材を扱っております。また、読む教材の最後に設定されている「言葉の力」によって言語能力の向上を目指すことができます。さらに、3年生の184ページをご覧くださいますと、情報化社会を生きる上での情報への接し方を学ぶ教材もあります。

【審議状況】

○委員 本市では、いわゆる電子黒板を、全小学校1年生から中学3年生まで設置をし

てまいりましたが、このような面でも、これからデジタル教科書が必要になり、整備していかななくてはならないと思っているわけですが、この3社のデジタル教科書に関しまして、将来的なことを踏まえてのお答えをいただきたいと思います。

○事務局 3社のデジタル教科書の発行につきましては、平成24年度にも発行されておりまして、28年度も発行予定でございます。

○委員 本市が抱える大きな学校教育の課題としての学力向上という観点からですね、本市の状況を見ますと、子どもたちの読書習慣がなかなか形成されていないと思っております。そういう意味で読書活動、これを充実していくという観点から、この3社の教科書はどのようなのかお答え願いたいと思います。

○事務局 編集趣意書等に記載のございます、東京書籍、光村図書について御説明を申し上げます。

東京書籍につきましては、1年生の94ページにもございますとおり、読書案内で書籍が多数紹介されております。

光村図書でございますが、1年生の90から93ページにございます、「本の世界を広げよう」というところで、本の推薦、紹介がございまして、読書意欲を育てるのに役立っているという特徴がございます。

○委員 言語活動の充実という観点では、それぞれどのような工夫がなされておりますか。

○事務局 東京書籍のほうから御説明をさせていただきます。

例えば、1年生の116ページに記載がございまして、スピーチや話し合いなど「話す・聞く」分野での活動があり、話すこと、聞くことの題材例が別に挙げられていることで、より一層活動の充実が図られております。

続きまして、教育出版は、1年生の42ページに記載がございまして、フリップを用いての報告、話し合い活動など「話す・聞く」分野での活動や鑑賞文を書くなど、「書く」分野での活動も充実されているところでございます。

最後に、光村図書でございますが、1年生の128ページをご覧くださいますと、スピーチ、グループディスカッションなど「話す・聞く」分野での活動に加えまして、観点を決めて書くなど、「書く」分野での活動も充実がなされております。

○委員 本市は「学力の向上」という、子どもたちの学力を高めるという観点に向かい、

取組みを進めているという中であって、特に「家庭学習の充実」が1つの大きなテーマになっていたように思います。そういう意味で、いずれの教科書もそれぞれ工夫がされていて、検定でも合格していますし、甲乙つけがたい部分もあろうかと思いますが、本市の子どもたちにとって、特にどれがふさわしいのかという意味合いで選ばれた部分というのをもう一度重ねて説明していただけないでしょうか。

○事務局 教育出版でございますが、1年生の279ページ以降に「言葉の自習室」という資料のページがございます、こちらは自習学習に活かせるという利点があると思われれます。

続きまして、光村図書でございますが、先ほども申し上げましたが、読書習慣の形成ということ踏まえますと、1年生の93ページ、「本の世界を広げよう」という読書コラムもございまして、作者のお話等が掲載されておりますので、帰宅後、さらに本を読むという習慣付けにもなるかと考えております。

○委員 今の点と若干重なる部分もございまして、「課題解決学習」という言葉に接する機会が結構あるわけですが、この課題解決という意味合いで、今の部分と重なりがあるように思いますけれども、それぞれの出版社にかかわってどのような特色があるのかというところをいまいし補足していただけないか。

○事務局 東京書籍でございますが、1年生の303ページをご覧ください。こちらに「学習用語一覧」というページがございます、様々な学習の中で、これを参考にしながら子どもたちが課題解決をしていくということが可能になっております。

教育出版でございますが、全体を通しまして、語句に関する資料や問題が多く、自学自習の助けになるというところがございます。

最後に光村図書でございますが、「目標設定」、「学習の窓」、「学習を振り返る」という形によって国語に取り組みやすい構成がなされております。

○委員 本市では、小中一貫教育を目指して、「守口市学校規模等適正化基本方針」を策定し、来年の4月には施設一体型の小中一貫校をつくっていくということで準備を進めております。他の学校についても、小中一貫校へということで進めていくということです。そういう意味で、小学校との関係は非常に重要になってくるんだろうと思いますし、可能な限り、教科書も9年間を見通すということがこれから必要になってくるし、施設一体型であろうが分離型であろうが、そういう視点というのは大事だというふうに思います。そ

ういう面で、小学校はどこを使用していましたかね。

○事務局 小学校は光村図書でございます。

○委員 来年度以降使用する教科書の採択でありますから、直接関係はないわけであり
ますけれども、継続性の意味を込めて、実際、今使っている教科書の使い勝手のよさ、悪
さというあたりについて、調査委員会ですら御検討いただくプロセスで現場の意見も
出てきたんではないかと思うんですが、現在使用している教科書については特に何もござ
いせんか。

○事務局 光村図書に1件いただいております、「大きく変更はないが、説明文など
に改善が見られる」等の御意見をいただいております。

○委員 ユニバーサルデザインに沿った教科書づくりが必要になってくる。その点を踏
まえて採択するべきだと思うのですが、編集段階において、専門家による指摘とか編集と
いったものがあるわけですか。

○事務局 東京書籍、光村図書、教育出版の3社とも専門家による校閲を、特別支援教
育につままして受けられているということが教科書に明記されており、誰にでも見やすい、
わかりやすい教科書というユニバーサルデザインの視点を取り入れて、色使い、レイアウ
トなどにより配慮されています。

○上記の質疑の後、賛成多数で光村図書採択。

●書写

答申にある東京書籍、光村図書の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

東京書籍につきましては、各教材に「目標」と「調べよう」「確かめよう」「広げよう」
の3段階からなる「学習の手引き」があり、生徒が目的意識を持って学習できるようになっ
ております。

また、29ページ、34ページ等にありますように、行書の導入を4つの動きで展開し、
実生活で行書が書けるよう工夫された指導内容になっております。これは29ページ、34
ページ、48ページ、50ページ等をご覧いただければと存じます。

さらに職場訪問の依頼状や礼状、エアメールの書き方など、社会参画意識や国際的な視野
を高めるような題材を扱っております。これにつきましては42ページをご覧いただければ

と存じます。

続きまして、光村図書につきましては、3ページをご覧くださいませでしょうか。書写を学習するに当たり、3年間の目標を提示し、生徒への意識づけをしております。

また、10ページをご覧くださいませると、教材の最初には文字の特徴や書き方のポイントを、生徒が発見し理解する活動が設けられ、主体的に考えられるような工夫がなされております。

さらに、68ページの「資料編」では、マッピングやレポートの作成、ポスター作り等、各教科や行事など実生活の中で活用できる教材が示され、生活場面につながる工夫がなされております。

【審議状況】

○委員 基本的なことをお伺いしますが、書写は週に何時間授業があつて、3年間で書写という教科で何を、どのような能力を身に付けさせようとしているのか、それをお伺いしたいと思います。

○事務局 書写の時間は国語の時間にカウントされておりますので、週1回あるかどうかという形になります。こちらの府の選定資料の学習指導要領にも記載がございますとおり、文字を正しく整えて書くこと、あるいは書写の能力を学習に役立てる等がやはり書写の重要な目標であると認識しております。

○委員 なぜ東京書籍のほうが大きいのか聞きたいですね。

○事務局 東京書籍は1つの工夫といたしまして、ワイド版になっており、例えば16ページ、17ページをご覧くださいませでしょうか。17ページの中央あたりに「書くときのポイント」があり、例えば姿勢、筆記の持ち方は4ページを見てくださいという形で、そういった工夫がなされておられ、ワイド版である1つの工夫であるかという認識をしております。

○委員 小中一貫という意味で小学校と中学校との接続というか、つながりという点に関して少し確認をしたいんですが、この2つの教科書に関わって、接続という視点に限った話としてどのように評価しておられるかをお聞かせください。

○事務局 小中のつながりということでございますが、東京書籍の場合、22ページから25ページまでご覧くださいませ、こちらに楷書のまとめということがございます。こちらには、小学校で習った漢字の内容を一覧にして掲載しているということで、つなが

りという点では1点あると思います。

続きまして、光村図書ですが、こちらのほうは構成といたしまして「基礎編」「学習編」「資料編」の三部構成になっておりまして、そのうちの基礎編というところ、4ページから9ページまでございますが、小学校で学習したことを再度確認するということで、中学校の学習内容へのスムーズな接続が図れるよう工夫がなされております。

○上記の質疑の後、賛成多数で光村図書採択。

●社会（地理）

答申にある教育出版、日本文教出版の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

教育出版についてですが、31ページをご覧ください。ここにありますように、写真、統計資料、図表などが見やすく、地理的見方、考え方の基礎を養えるよう配慮されております。

また、65ページ、66ページをご覧ください。わかれますように、資料の読解力をつけるため、「読み解こう」、「ふりかえる」、「学習のまとめと表現」などが設定されております。このように、学習ごとに「ふりかえる」というコーナーがあり、章の終わりには「学習のまとめと表現」があり、振り返ることができるようになっております。

続きまして、日本文教出版でございますが、まず12ページをご覧ください。ここに「世界の姿」、「日本の姿」で白地図作業や地形図の読図を取り入れ、地理的な見方や考え方の基礎を培うようになっております。

また、53ページをご覧ください。ここでは、コラム「地理+α」、そして次のページ、特設ページ、「自由研究」、少し飛びまして146ページですけれども、「地域からのメッセージ」というように、最新の地理のトピックが取り上げられ、具体的事例が挙げられております。

さらに、188ページをご覧ください。ここに、「言語活動コーナー」を設け、図版の内容を読み取ったり、読み取ったことを基に思考、判断、表現したりする活動が明記されております。

【審議状況】

○委員 2社ともデジタル教科書はありますか。

○事務局 2社とも発行予定でございます。

○委員 生徒等がそういう資料を実際に見て、共有をしていくという過程で、書画カメラ等をどんどん使っていく必要があろうかと思うのですが、その辺の教科書としてはどうなのかということをお教えいただきたいと思います。

○事務局 教育出版でございますが、24ページをご覧くださいますと、グラフや写真が比較的大きく掲載されておりまして、導入の資料に「見てみよう」が配置され、導入がスムーズに進行するよう工夫されておりまして、このグラフ、写真等を映し出すことも可能かと思っております。

日本文教出版でございますが、32ページをご覧くださいませでしょうか。こちら写真や資料、地図がバランスよく配置されておりまして、「言語活動コーナー」では、図版の内容の読み取り、思考、判断、表現する活動が設定されておりまして。

なお、142ページもご覧くださいますと、選定委員会でも御意見をいただいておりますが、土石流による災害ということで、最新の写真等が掲載されてございます。

○委員 資料に基づいていろんな話し合い活動を深めていくということですが、先ほど最新の資料が多いとおっしゃっていましたが、そういう差はあるんですか。

○事務局 選定委員会等でもお話がございましたが、資料につきましては、日本文教出版のほうが一番最新であるというふうに表示をされています。

○委員 2社とも写真や図やグラフの量は甲乙つけがたいということでしょうか。

○事務局 大阪府教育委員会が出しております教科用図書選定資料の中学校用地理の15ページをご覧くださいませでしょうか。

その他という項目で、1つの例として、本文ごとにページ数が示されておりますが、参考までに日本文教出版のほう、大阪府の地名等については32ページと多くなっておりまして。上の自然災害や防災に係る内容についても25ページと数字的には若干多く掲載されているところでございます。

○委員 領土問題についてはどんな感じですか。

○事務局 領土問題につきましては、学習指導要領の解説が変更になっておりますので、どちらも記載がきちんとされております。

○上記の質疑の後、賛成多数で日本文教出版採択。

●社会（歴史）

答申にある東京書籍、帝国書院、日本文教出版、委員より推薦のあった育鵬社の4つに
絞り、審議を行った。

【説明要旨】

東京書籍について説明させていただきます。

東京書籍につきましては、まず20ページ、21ページをご覧ください。各時代の初めに、
小学校での学習を振り返る過程が設けられ、小学校の学習内容に中学校の学習が積み上げら
れるよう配慮されております。

続きまして22ページ、23ページですが、各ページの学習の見出しにはその単元の中心
発問が、各ページの学習の最後には学習のまとめとなる発問が明示されております。このよ
うに主体的に学習が進められるようになっております。

また、193ページをご覧くださいますと、歴史新聞等が記載されております。

230ページにつきましては、平和学習について簡潔に調べ方や作成の仕方が説明されて
おり、生徒の自学自習力の育成につながると考えております。

続きまして、帝国書院につきまして御説明させていただきます。まず13ページをご覧
いただきますと、各ページの学習の「確認しよう」、「説明しよう」等が記載されております。

48ページ、49ページにまいりまして、「学習をふりかえろう」ということで、振り返
りのページが記載されております。各時代の特色について多角的に考察し、表現する課題も
設定されております。

30ページをご覧ください。ここにございますように、各時代の初めに「タイムトラベル」
として、イラストを通してその時代の様子が視覚的に理解できるように配置されております。

また、117ページをご覧ください。ここには「人権」をテーマに羅針盤マークをつけた
コラムを配置し、部落差別・男女差別・在日外国人等の人権問題について取り上げられてお
ります。

続きまして、日本文教出版について御説明します。

日本文教出版は、見開き1ページを1時間の授業で行うようになっており、また歴史用語
の漢字に振り仮名がきめ細かに振られており、生徒が自ら学習しやすい内容となっております。

さらに各ページの最後には確認、活用の項目が示されております。具体的には48ページ、
49ページをご覧くださいただければと存じます。

また、56ページ、57ページをご覧くださいますと、各項の終わりには学習をまとめる作業が行われる構造となっており、こちらにつきましても自学自習や振り返りがしやすいように工夫されております。

さらに240ページにありますように、「でかけよう、地域調べ」では地域調べなどの方法が示され、地域学習の導入として使いやすいのも特徴となっております。

続きまして、育鵬社につきましては、各章に「このころの世界は」が設けられ、各時代における日本と世界の歴史を関連づけて学習できるように配慮されております。

また、各見開きのページには、学習課題やねらいを確認する発問と学習内容をまとめる課題が設置されており、言語活動の充実を図れる工夫がなされております。

さらに、章末の「学習のまとめ」では、各時代の特色について自分の考えをまとめ、発表する課題が設定されております。

【審議状況】

○委員 各社デジタル教科書はどうなっていますか。各社ともあるんですか。

○事務局 デジタル教科書につきましては、現在、24年度発行されているのは、東京書籍と帝国書院の2社でございます。

28年度予定されていますのは、日本文教出版と育鵬社の2社でございます。

○委員 ユニバーサルデザインの観点での編集と申しますか、ここにあるものについてはされているのかどうか、ちょっと確認をしておきたい。

○事務局 ユニバーサルデザインにつきましては、4つの教科書とも、編集趣意書等含めまして配慮はなされていると書かれており、編集者の一覧を拝見させていただきますと、日本文教出版と東京書籍につきましては、専門家の校閲がなされているということが、はっきりと確認ができます。

○委員 領土についてですが、日本文教出版の記載がいささか少ないような気がするんですが、いかがでしょうか。

○事務局 日本文教出版につきましては、265ページに掲載をされておるところでございます。確かに、東京書籍は252、253ページの2ページ、帝国書院は246、247の2ページ、育鵬社につきましては173ページということで、委員御指摘のとおり、東京書籍のボリュームが若干あります。しかし、全て文章で説明し、地図も掲載されており、学力向上につながるという教科書という視点でいけば、どれもわかりやすく記載され

ていると考えております。

○委員 学力向上という観点から見ましてですね、子どもが主体的に学ぶということは大変重要であると思うんですけれども、各社どういうふうな工夫がされているか、少し具体的に教えてください。

○事務局 東京書籍におきましては、どのページでも見ていただいて結構でございますが、各ページの学習の見出しには中心発問が必ずありまして、学習の最後には、「説明しましょう」と机の絵の記号がございますとおり、確認のための課題が設定されているところでございます。

帝国書院につきましては、32ページをご覧くださいますと、鉛筆のマークで「学習課題」がございます。続いて、右下に「確認しよう」、「説明しよう」を各ページに配置しまして、生徒だけでも予習、復習しやすく工夫がなされております。

続きまして、日本文教出版でございますが、例えば78ページをご覧くださいますと、このように各ページごとに学習課題が明示されており、右下に学習の確認・活用という項目で、まとめや振り返りが行えるよう整理された構成となっております。

最後に、育鵬社でございますが、例えば82ページをご覧ください。各見開きページには、学習課題やねらいを確認する発問と、右下に学習内容をまとめる課題が設置されております。

○委員 日本文教出版を見ると、見開き左右で大体1時間という感じでずっと編集してあるような気がするんですが、これだと教員にとっても1つの目処がつきやすいし、子どもにとっても今日はどこまで勉強をするのかというのがわかりやすいというように思うんですけれども、他の教科書もこのようになっているんですか。

○事務局 日本文教出版の場合でございますが、ただいま御指摘のとおりでございます。

○委員 日本文教出版の教科書の左側、ほとんどのページに世紀、時代から今日までのずっと目盛りのように打ってあって、現在の学習しているところがどこに相当するかというのが常に書いてあるという、こういう様式というのは、今までそのようにしていたのでしょうか。

○事務局 ただいまご指摘のものは、歴史物差しとなっております。日本文教出版だけの工夫となっております。申し訳ございませんが、24年度以前のものは確認できておりません。

○委員　やはり社会科は歴史に関しましても、人権的な取り扱いというのは必要だと思われませんが、その点は各社どのようになっていますか。

○事務局　日本文教出版につきましては、例えば87ページでございますが、そちらのほうに「中世史+α」ということで「河原者がつくり出した文化」ということで、コラムで掲載されているという部分がなされております。

続きまして、東京書籍でございますが、115ページをご覧くださいませでしょうか。こちらにも江戸時代の身分意識について、その職業や暮らしの様子について詳しく示されているという人権に配慮された取り扱いがなされております。

帝国書院でございますが、71ページをご覧ください。そちらのほうに北海道のアイヌの伝統文化等、地域史ということで触れられております。

最後に、育鵬社でございますが、64ページに「なでしこ日本史」という、各時代に活躍した女性を紹介するコーナーが設けられております。

○委員　日本史の教科書ではありますが、例えば、そのときの世界情勢について簡単に触れているかというような観点で見ていたんですけれども、あまり差がないというか、ほとんど必要なところ以外は触れられていないなという感想ですが、その辺りについてはいかがでしょうか。

○事務局　世界とのつながりで日本史を学んでいくことも重要ではございますが、主に中学生ということで、日本の歴史が中心になりますので、その辺は大差がないと思います。

○上記の質疑の後、賛成多数で日本文教出版採択。

●社会（公民）

答申にある教育出版、日本文教出版の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

教育出版につきましては、見開きで1時間の構成となっております。38ページ、39ページをご覧ください。このように左右で1時間の構成で、本時の重要語句を盛り込んだ学習課題の提示、本文、資料考察、読み解こう、資料活用の視点、ふりかえる、ステップ1・2ということで構成されており、学習の見通しをつけやすく工夫されております。

また、72ページをご覧くださいませると、確認問題というものが、各章に載せてあります。

また、巻末240ページをご覧くださいませでしょうか。用語集が掲載されておまして、

自学自習のヒントともなっております。

さらに、例えば30ページでございますが、「言葉で伝えあおう」ということで、ディスカッション、ディベート、裁判傍聴や模擬裁判、プレゼンテーション、レポート等、基本的な言語活動のスキルが身につくように配列がなされております。

続きまして、日本文教出版でございますが、見開きで1時間、導入の図表等で示されております。38ページ、39ページをご覧いただければ、導入の図表、学習課題の提示、本文、学習の確認と活用という構成となっており、学習の流れがわかりやすく工夫されております。

また、キーワード、重要語句のページ、キャラクターの吹き出し等も学習への流れを導く助けとなっております。

さらに、「読み取ろう」等の言語活動コーナー、「チャレンジ公民」で読み取り、考察、表現などの言語活動の課題が多く設定をされております。

【審議状況】

○委員 公民の分野と歴史的な分野というのは非常に関連性があり、公民を学ぶ意義というのは当然あると思うんですが、やはり歴史と関連付けて学ぶこともあると思うのですが、その辺の関連性というのは、教科書の中で示しているのでしょうか。

○事務局 領土問題に関しましては、公民と歴史が関連付いてきますし、例えば教育出版の179ページにも触れられておりますことから、歴史とは切り離せない部分も当然あるかと思えます。

○委員 デジタル教科書についてご説明願います。

○事務局 日本文教出版、教育出版、いずれも28年度の発行予定が確認できております。

○委員 公民を学ぶことから、それぞれが公民として、かくあるべしということ学ぶのは当然必要でありますけれども、中学生が中学校の構成員の一人として、生徒会活動であったり、学校での色々な活動の中で公民的な思想を育てていくために、例えば具体的に、こんなことが盛り込まれていて、こういうことが身についていくとかですね、一般論としてのお話を聞くというだけではなくて、それが実際の生活の中で役立っていくという、そういう視点がどの程度盛り込まれているんだろうかなというのがちょっと気になったんですけど、この両社の教科書はどうなんですか。

○事務局 公民の中では「対立と合意」という学習がございまして、例えば、教育出版

の26ページをご覧くださいでしょうか。そちらに「よりよい社会を築くために」ということで、上にケース1、2、3とありまして、例えば、ケース3では「合唱コンクールで歌う自由曲を2つ絞り込み、多数決をとったら同数になってしまった」という内容を具体例として挙げられております。

また、日本文教出版の24ページをご覧くださいますと、漫画でわかりやすく、同じように秋の部活対抗合唱コンクールの練習予定ということで、委員長おっしゃられた生徒会活動等も踏まえて、実際にここで具体的に学習していくというのもあり、両社とも工夫がなされております。

○委員 選挙制度の変更で、選挙権が18歳から与えられるということで、議会でも幾つかの質問が出ました。その中で子どもたちにどんな授業を展開するのかというような意見が出て、それに答えているわけですけれども、やはり政治的中立性を担保しなければならない中で、それがこの教科書の中でどのように触れられているのかどうかということについてお聞きしたい。

○事務局 教育出版のほうでございますが、77ページをご覧ください。日本文教出版につきましては79ページ、アクティビティというところのコラムで説明されております。どちらも図入りで、わかりやすく説明されているところでございます。

○委員 まだ18歳以上というのは載っていませんね。こちらが作成された段階では議論中であり決まっていなかったことですが、その後決まったことについての扱いはどうでしょうか。教科書に追加資料としてされるのか、それとも指導される先生方が教科書にプラスして、教材として付加するものとして教えられるのか。一般的な扱いではどのようになっていますか。

○事務局 実際学校現場では時事問題等も適宜タイムリーに扱うこともございますので、当然そういった法律等を学ぶ中で取り扱う面もあると思います。

○上記の質疑の後、賛成多数で日本文教出版採択。

●地図

答申にある東京書籍、帝国書院の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

東京書籍の19ページをご覧ください。写真やグラフの量、新しい内容が多く、生徒の興

味・関心を高めるよう工夫されております。また、タイトルの「注目したい記号」で課題を設定し、指導に取り組みやすくなっています。さらに、地図全体がやわらかい色調で表現され、地名の表記が見やすくなるよう配慮されております。

続きまして、帝国書院の11ページをご覧ください。各ページに「やってみよう」で課題を設定し、作業的・体験的な学習が進められるよう配慮されております。また、資料図では、イラストや写真を多用し、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されております。さらに、生徒が自ら文章にまとめる作業をし、話し合いやグループ活動での指導ができるようになっております。

【審議状況】

○委員 9年間を見通してやっていく場合に、地図というのは2社しかずっとないということ、小学校がどこでしたかね。

○事務局 小学校は東京書籍です。

○委員 守口市の記載について調べてみたんですが、帝国書院のほうは守口市が98ページに載ってしまっていて、八雲、佐太、梶町と詳しく書いてありますが、東京書籍のほうは守口市が途中で切れているような状況なので、できれば守口市の子どもたちが使う地図帳という意味では、帝国書院のほうがいいのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○委員 ユニバーサルデザイン、カラーバリアフリー等の問題もありましょうし、領土問題に関わる記載はどうなっているかとかですね。いろんな比較があるかと思うのですけれども、どうでしょうか。この2つの出版社のそれぞれの特徴をもう少し補足して、説明していただけませんか。

○事務局 両社の編集趣意書の言葉でございますが、東京書籍の場合は、今日的課題に対応した地図帳、見やすく読み取りやすい地図帳等4点上げられております。帝国書院は、社会科の基礎基本がしっかりと身につく教科書、人々が作り上げてきた世界や日本の各地にあるさまざまな文化が認識できる教科書等6点、特徴として上げることができると思います。

○委員 帝国書院のほうが、例えばアメリカ、北アメリカを比べても見やすいような気がしますし、帝国書院の60ページには日本の位置も書いてあって緯度や大きさの比較もできますし、おもしろいのは66ページの南アメリカ大陸ですね。日本のちょうど真反対

はどこにあるかというのがわかるようになっていきます。私個人の意見としては、帝国書院のほうがいいのかなという、感想でございます。

○委員 帝国書院のほうが、守口市がきちっと載っているし、非常にわかりやすい。ただ、小中一貫教育という観点から見れば、東京書籍が好ましい。しかし、帝国書院となれば、その辺をどうするかというのだけ、ちょっと考えさせていただきたい。

○上記の質疑の後、賛成多数で帝国書院採択。

●数学

答申にある東京書籍、啓林館、数研出版の3つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

東京書籍から御説明いたします。東京書籍につきましては、2年生の46ページをご覧ください。考える力を育成する発展的課題が多く設定されており、言語活動を取り入れた授業づくりがしやすいよう課題提示がされております。また、めあてが「～を考えてみよう」という文言で統一されて、導入部分にデジタルコンテンツの活用場面も多く設定されています。171ページをご覧くださいませでしょうか。ここにありますように、他教科との関連教材も多く扱われていると考えております。

続きまして、啓林館の1年生の76ページをご覧ください。基礎的な内容が多く、幅広く取り組みやすくなっているとともに、解き方が何通りかあるときは、違いが見えやすいようにという工夫がされております。また、別冊として「Math Navi」が作成されており、内容もわかりやすく、取り組みやすく構成されております。

さらに1年生の196ページには、数学の歴史が取り上げられており、他の教科、領域と関連のある内容についても、47ページに職業体験というようにして取り上げている部分もございます。

続きまして、数研出版の1年生の103ページをご覧ください。基礎・基本の定着に役立つ身近な事象を活用した展開が多くなっております。また、めあての明示、話し合い活動の充実等、考える力の育成につながる内容ともなっております。例えば、1年生の33ページには「ここで学ぶこと」ということで示されております。また、31ページにありますように、さらに自学自習のためにわかりやすいチャートとなっており、繰り返しがしやすいというふうな工夫がされております。

【審議状況】

○委員 数学は学力向上にとって、本当に大きな一つの教科である思っているわけですが、やはり基礎・基本を指導すると同時に、わかる子についてはどんどん発展的にやっていくという、これが指標だというふうに思うわけですが、その辺の兼ね合いはどうなっていますか。

○事務局 啓林館のほうでございますが、「Math Navi」という別冊の冊子がございます、その中で発展的な学習等の問題も記載されており、委員おっしゃられた学習が可能かと思えます。

東京書籍につきましては、1年生で申しますと巻末227ページ「もっと数学しよう」ということで問題編、課題が設定されております。

数研出版におきましても239ページ、「チャレンジ編」というのがついておりまして、問題集的な意味合いが強い学習ができるというふうに考えております。

○委員 守口でも家庭学習冊子をつくって、子どもたちに配ってはいますが、その辺の家庭での学習が、よりできるような視点はどうなっていますか。

○事務局 家庭学習につきましても、先ほどの発展的な学習の中で、その学習が可能かと思えますので、3社におきましても、それぞれページが設定されていると考えております。

○委員 小学校算数とのつながりですね。中学校でいえば復習になる部分でありますとか、あるいは中学校の数学から高等学校への数学に発展をしていくという、そのつながりという部分で見たときの連続性、関連性あたりについて補足して、説明していただけますでしょうか。

○事務局 算数と数学のつながりにつきましては、連続性ということは当然あるかと思えますが、学習の形態ということで申し上げますと、やはり小学校も中学校でも、問題をみんなで練り上げて考えていくということで考えていきますと、例えば東京書籍の1年生の10ページをご覧くださいませでしょうか。先ほども選定委員会から御説明ございましたが、青色で「考えてみよう」というところが書かれてありまして、めあてを明確にして学習に取り組んでいく、これは小学校と同じ流れかなというふうに思えます。

啓林館のほうにつきましても、例えば14ページをご覧くださいませると、右上のところ「ゼロより小さい数値を学びましょう」ということで、めあてをきちんと明確にして記

載がなされておりませう。

数研出版の場合、例えば14ページを閲覧いただきますと、正の数と負の数というところで「ゼロより小さい数について学びませう」と、いずれもめあてをはっきりさせているというのが3社の特徴だと思ひます。

○委員 東京書籍の「数学のまど」というコーナーおもしろいですね。すごくわかりやすく、公式を覚えるだけではなく、なぜその公式なのかを考えさせるという意図がよく表れていて、これはいいと思ひます。

○委員 各社とても工夫がされているというのは感ひますね。一まとめにしてあり、どこに何が書いてあったか探さなくても、何かのときにはそこを引っ張り出せばいいとかですね、興味を持ちそうな話題を直接の数学でやる中身と少し離れたものをまとめてあったり、過去の部分を振り返って、その次に続けていくというような工夫であったり、とても興味を引きつけられるというか、社会との関連、ほかの教科との関連、歴史的な事柄等々、多彩な工夫がなされているというのは、とても好感が持てるなと思ひました。最終的な判断をしたいと思ひますが、量的に見てちょっと違いがありますが、この量はいかがですか。内容的には同じ範囲のものが盛り込まれているはずですけども、ちょっと厚みが違いますよね。別冊があるからとかの違いでしょうか。

○事務局 大阪府教育委員会の選定資料で確認させていただきますと、一番多いのが東京書籍の822ページでございます。それと啓林館が772ページですが、別冊のナビブックが180ページございますので、かなりボリュームに差があります。

○委員 数学は重要科目であるということで、先生方が新しい学力観に沿った授業をどう展開していくか。いわゆる授業改善をやっていかなければ、学力というのは伸びないということで、どういふ教科書を使うのかというのは非常に大きな視点になってくると思ひますけれども、例えば言語活動という視点からいへば、ほかの部分でもですけど、どうなのかということをお聞きしたい。

○事務局 言語活動の充実というところにつきましては、各教科書とも、その点について触れておひまして、例えば東京書籍の場合、1年生の6ページに「学び合ひ」とあり、そこにグループワークの写真を入れまして、これについて強調しておひます。

啓林館でいきますと、1年生の8ページでございますが、こちらも同じように言語活動の充実に向けて話し合ひるときに、発表する、まとめる等、そのような写真を入れおひまして、

強調しているという点がございます。

○委員 これからはアクティブ・ラーニングの時代に入ってくると私は考えるのですが、その辺について何かありますか。

○事務局 「学ぶ」という観点からいきますと、啓林館、東京書籍のほうには、お互いに話し合っ解決していこうという時間を設けていますし、交流しながら、しっかりと意見を発表できるという取り組みについて教科書に掲載されていると認識しております。

○上記の質疑の後、賛成多数で東京書籍採択。

●理科

答申にある東京書籍、啓林館の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

東京書籍ですが、1年生の92ページ、93ページをご覧ください。展開としまして、推測、予測から実験・観察というように、順序よく配列されております。

また、導入につきましては、印象的な大きな写真が配置されております。例えば1年生の201ページをご覧くださいますと、印象に残るような写真で、例示として活用しやすくというふうになっております。

さらに、3年生の23ページをご覧くださいいただけますでしょうか。自学自習という観点から、「例題」や「解き方」における記述につきまして工夫をされておられます。

続いて、啓林館につきましては、1年生の39ページをご覧くださいいただけますでしょうか。学習を展開するに当たり、「予想してみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」というように設定されており、その筋道をしっかりとつけております。

また、マイノートの基本のチェックや力だめしがあり、学習した内容の理解度を生徒自身が確認できるようにも工夫されております。

さらに16ページには、それぞれの各章のところに振り返りとして小学校の復習を入れて、整理がなされております。このように小学校とのつながりも考えられております。

【審議状況】

○委員 理科といたら実験・観察、これが非常に大事で、その比較はどうなっていますか。

○事務局 実験・観察についてでございますが、取り扱っている箇所数でいきますと、大阪府の選定資料では、東京書籍が75、啓林が72カ所ということで、ほぼ同数の扱い

になっております。

○委員 理科実験の際、一番怖いのは事故であります。安全性をどう担保するかということについては、きちっと書かれていますか。

○事務局 安全への配慮でございますが、啓林館の場合ですと、41ページ、例えば「石灰水、光合成に伴う二酸化炭素の出入り」というところで、びっくりマークで「石灰水が目に入らないように注意する」というところで喚起がされております。

東京書籍、1年生の137ページをご覧くださいますと、そこに「注意」という形で、例えば「ドライアイスを手で触らない」といった項目で注意を促しているところがございます。

○委員 啓林館のほうには、マイノートというのがありますが、こちらの活用方法を教えてください。

○事務局 啓林館のマイノートについてでございますが、観察・実験に関連して行うサイエンスアプローチ等、学力を定着させ、応用力を身につけるためのステップアップの2部構成とされております。具体的には、調査報告にもございまして、基本のチェックや力だめしがあり、学習した内容の理解度を生徒が自分で確認する。さらに、実験のまとめや学習状況に応じた復習問題、用語のチェックを自分でする等の活用となります。

○委員 青いシートがついていますが、昔は赤いシートだったと思うのですが、変わっている理由は何かあるのでしょうか。

○事務局 青色シートにつきましては、編集趣意書のほうにもございますが、「カラーユニバーサルフィルタ」とも呼ぶそうで、これによって男性の20人に1人とされる色弱の生徒であっても支障なく使用できます。

○委員 啓林館の教科書の1年生の巻末のほうに「サイエンス資料」というのがあるんですね。理科でよく使う算数・数学とか、ICTの活用とか、単位の仕組みとかですね。東京書籍にもこちらと同じようなコーナーはございますか。

○事務局 東京書籍でございますと、1年生の176ページの左側に、「算数で学んだこと」というふうに、他の教科との関連ということで、小学校6年生で学ぶ比例について触れていますので、このような形で触れられているというふうに考えております。

○委員 理科というのは、やっぱり実験・観察が基本であります。天体授業はICTが非常に有効でわかりやすい。その辺はどうなっていますか。

○事務局 ICTの活用につきまして、デジタル教科書につきまして、両社とも発行予定となっております。

○上記の質疑の後、賛成多数で啓林館採択。

●音楽（一般）

答申にある教育出版、教育芸術社の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

教育出版より御説明いたします。教育出版につきましては、伝統音楽に重きを置き、丁寧な説明がなされています。例えば、1年生の19ページと42ページをご覧くださいませでしょうか。新しい言葉や理論について、どこを参考にすれば理解できるかを明記し、自ら知ろう・学ぼうとする意欲を育てようとしております。

さらに2・3年生の上、13ページをご覧くださいませでしょうか。ここにありますように、歌詞を大切にし、言葉の持つ意味や背景を丁寧に解説するということがなされております。

続きまして、教育芸術社の2・3年生の上66ページをご覧くださいませでしょうか。教育芸術社につきましては、歌われ続けている曲が選曲され、親しみやすく、合唱に取り組みやすいというような工夫がなされております。

また、同じ2・3年生の上の6から7ページ、または30ページから31ページにありますが、ワークシート形式の教材が含まれ、段階を追って授業ができるので、意欲が湧くようにというように工夫をされております。

【審議状況】

○委員 音楽の授業を見ておりますと、教師よりうまくピアノを弾くような、音楽的な技能の優れている子がいる反面、音符も余り読めない子もいると、格差が非常に大きい教科の一つだろうと思います。そういう子たちが集って授業をする中で、グループ学習とか色々していくと思いますけれども、お互いに教え合うことが非常に大事であると思いますけれども、そういう配慮はどのようになっていますか。

○事務局 教育出版の1年生の62ページをご覧くださいませと、どんな特徴があるかということで、一つの例として、聞き取ったことや感じたことを互いに話し合う、「伝えてみよう」というコーナーが掲載されておまして、この中で自分たちの感じたことを一緒に話

し合って、学び合うということが可能になっております。

少し前に戻っていただきますけれども、52ページには「音のスケッチ」というところで、こちらは2人での活動になりますけれども、このようなグループ活動について配慮がなされております。

続きまして、教育芸術社の2・3年の下の31ページをご覧くださいませでしょうか。こちらでもグループ活動を通して音楽について考えていくという工夫がなされております。

○委員 格差があるからといって、そのままほっとくわけにはいかないのです、全くできない子たちに基礎的な力をつけないことにはどうしようもないと思います。そういう手立ては、この中で見られますか。

○事務局 基礎的な技能の定着ということでございますが、教育出版の1年生の19ページをご覧くださいませでしょうか。ピアニッシモ、3連譜という言葉がございますが、このように新しい言葉や理論について、どこを参考にすれば理解できるかを明記しまして、自ら知ろう、学ぼうとする意欲を育てる工夫がなされております。

一方、教育芸術社でございますが、2・3年の上、11ページをご覧くださいませると、「マイボイス」というところで、自分の思いを歌声に乗せようということで、曲に対して必要な理論やテクニックについて、その都度、解説がなされております。

また、教育芸術社につきましては、2・3年の上の6ページをご覧くださいませると「ビンゴゲーム」ということで、音符、休符、記号などの確認をしましょうというページがあります。

同じく2・3年の下の8ページをご覧ください。このように教育芸術社は、継続的に、繰り返し学習すべき事項については再度掲載する等の配慮がなされております。

○委員 この教育芸術社の教科書を見ますと、情景を思い浮かべながら言葉を大切に歌おうとか、目標が全部はつきりと書いてありますよね。なぜこの歌をやるのかということで、わかりやすいなというふうに思いました。

○委員 指導する先生方の立場から見ると、教育芸術社はアカデミックに色々なことが盛り込まれていて、その中からどのように加工して子どもたちに教えるかという、指導する立場の先生方にとっても使いやすく、準備がなされているなあという、そんな感じがしますね。比べてみて、大分違うような感じがするんですけども、内容的には同じものが盛り込まれているんですか。

○事務局 教育芸術社につきましては、基礎基本的なものを大事にしているという観点から、歌も基本的なものを採用しているという御意見をいただいております。

教育出版のほうは、様々なジャンルのものをいろいろ工夫して載せているというふうに思っています。

○上記の質疑の後、賛成多数で教育芸術社採択。

●音楽（器楽）

答申にある教育出版、教育芸術社の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

教育出版についてですが、楽曲内容が書きおろしの新曲も交えて、基礎からより高度な音楽性の涵養まで幅広く構成されております。また、4ページから18ページにリコーダーの記載がございまして、アルトリコーダーとソプラノリコーダーとが併記されており、指使いの比較をしながら両楽器の合奏に自然に入り込めるよう工夫をされております。

さらに、30ページでは琴、40ページには三味線、56ページには和太鼓というように、和楽器に関する記述が詳細に載っておりまして、写真や図版等も見やすく、コマ送りふうに配列され、手元や体の動きが一目でわかるように工夫がなされております。

続きまして、教育芸術社の46ページから49ページをご覧くださいませでしょうか。こちらには、ラテン系打楽器を含む、普段の楽器合奏で使用される頻度の高い打楽器の奏法を写真入りで取り上げております。

また、50から55ページをご覧くださいませでしょうか。ここには合奏での楽器選択や創作活動への関連付けをすることによって、生徒相互の協力的活動や調べ学習、グループでの話し合い活動などへ発展させることができる工夫がなされております。

さらに、戻って5ページをご覧くださいませでしょうか。ここにありますように、「Q&A」というふうに、生徒や指導者の素朴な疑問に答える形でのコーナーを設けております。

【審議状況】

○委員 守口の場合、和楽器で一番多いのは琴ですよね。小学校6年生で経験してる子もたくさんいますし、中学校でも琴をやっている学校が幾らかありますし、また琴のクラブがあるところもありますし、太鼓とか三味線、篠笛とかはなかなかないですけども、この辺の楽器が馴染めるような雰囲気守口にはあるので、その辺ができるような教科書がいいかと

思うのですが、見るからに遜色はないなと思っていますけども、その辺はどうですか。

○事務局 琴につきましては教育出版は18ページ、教育芸術社は9ページと、少し扱われ方が異なっております。

三味線につきましては、教育出版は12ページ、教育芸術社9ページとなっております。

○委員 先程、【音楽（一般）】は決めましたけども、やっぱりここは一緒のほうがいいのではないかな。器楽と違うというのであればちょっと問題になってくると思いますので、その辺は考えながらやるほうがいいかなというふうには思っています。

○上記の質疑の後、賛成多数で教育芸術社採択。

●美術

答申にある光村図書、日本文教出版の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

光村図書についてですが、題材ごとに目標がはっきり示されており、構想が練りやすく工夫されております。2・3年の92ページから97ページをご覧くださいますと、「トピックス美術史」と題し、美術文化について理解が深まるよう配置がされております。

80ページから81ページにございます、「メディアを活用する」では、デジタルカメラの活用やデジタルビデオカメラやタブレットなどを使用した映像づくりが取り上げられ、生徒のプレゼンテーション力を育むような内容もございます。

続きまして、日本文教出版を御説明させていただきます。生徒の発達特性や連続性に考慮した課題設定で、主体的に造形活動ができるようになっております。2・3年の上、22ページから30ページをご覧ください。ここではミューズコットン紙を用い、水墨画の質感や教科書、美術館で取り上げられている日本の浮世絵、版画技法や西洋美術に与えた影響を実感できるように工夫がなされております。

さらに、51ページから53ページには、美術館以外のアート体験として、校外での美術に親しむことができる視点で構成がなされております。

【審議状況】

○委員 図工と美術は違うわけですけども、最初から話題になりましたように、小中一貫になってくると、施設一体型の学校では美術の先生が小学生に対しても図工を教えるという構図になってくると思うわけですけども、その辺の関連性はどうですか。

○事務局 小・中の関連ということでございますが、具体的に申しますと、光村図書の1年生の5ページ、6ページをご覧くださいませでしょうか。そちらのほうに幼児期、小学校、図画工作科から、美術への学習関連づけということで、上下の欄でこういうふうに示されております。

一方、日本文教出版でございますが、1年生の6ページ、7ページをご覧くださいませでしょうか。こちらのほうに「図画工作、そして美術へ」と書かれておまして、小学校の図画工作から美術へのつながりを意識した取り扱いが両者ともなされているところでございます。

○委員 美術、図工でもそうですが、施設一体型の学校になったときには、非常に教科担任が指導しやすいようになってくると思いますので、そこら辺を大事にしながらやっていく。小学校が今、どこを使用していますか。

○事務局 小学校のほうは日本文教出版です。

○委員 創作はもちろんですが、鑑賞といったものも非常に大事な分野だと思います。せっかく大阪には美術館とかが近くにあって、簡単に鑑賞ができるぐらい立地条件がいいわけですから。その辺が日常、家庭の中でできるような視点が入っているのかということ。同時に、伝統的な日本文化としての博物館もあるわけですから、そこら辺についてもわかる範囲内で結構ですから教えてください。

○事務局 伝統文化につきましては、光村図書の2・3年の92ページから97ページをご覧くださいませでしょうか。「トピックス美術史」と題しまして、美術文化について理解が深まるようなページが配置されております。

一方、日本文教出版でございますが、2・3年上の50ページから52ページ、年表がございませが、美術文化について、その歴史や伝統文化を尊重するよう、折り込みのページになっておまして、配慮がなされております。

また、鑑賞指導につきましては、「光村図書」の1年生をご覧くださいませでしょうか。「体験しよう、美術館」というところで、鑑賞の力を高められるような美術館のギャラリートークなどの活用が取り上げられております。

日本文教出版でございますが、1年生の18ページから19ページ「鑑賞との出会い」ということで、男子・女子生徒が非常に楽しげにかつ驚きを持った様子を掲載し、感じたことを表現するポイントを「言葉にしてみよう」がわかりやすく工夫されているところでござい

ます。

○委員 ICTについては、美術ではどのような工夫がなされているのでしょうか。

○事務局 光村図書の場合、2・3年生の80ページから81ページ、「映像メディアを活用する」というところがございますが、デジタルカメラの活用やデジタルビデオカメラやタブレットなどを使用した映像づくりを取り上げられ、生徒のプレゼンテーション力を育む内容になっております。

日本文教出版でございますが、2・3年下の53ページに、CGやICT機器を活用した表現が掲載されているところでございます。

○上記の質疑の後、賛成多数で日本文教出版採択。

●保健体育

答申にある東京書籍、学研教育みらいの2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

東京書籍の9ページをご覧くださいませでしょうか。「やってみよう」から内容が始まり、「考えてみよう」までの流れがあるので、見やすく、取り組みやすい内容になっております。「考えてみよう」では内容について考えたり話し合ったりする活動ができるようになっております。これは25ページを見ていただいてもわかるかと思えます。

さらに、30ページ、31ページをご覧くださいませでしょうか。ここにありますように、さらに学習したことを「確認の問題」として、各章末に取り組むことができるようになっております。

続きまして、学研教育みらいの10ページをご覧くださいませでしょうか。それぞれのテーマで「学習の目標」が全て掲載されていることで、取り組みやすい内容になっております。

また、「資料」や「コラム」につきましては、20ページをご覧くださいませでしょうか。このように資料やコラムというものが豊富に入っておりますので、内容として充実しております。

さらに、27ページには各時間の「活用しよう」というものがございます。

また、32ページでございますが、各章のまとめ問題におきまして、生活に結びついた課題解決的な問題が載せられております。

【審議状況】

○委員 自然災害等による避難等の行動も含めて、そのあたりについての取り扱い、それから応急手当等の対応についてはどのような扱いになっていますでしょうか。

○事務局 自然災害についての記述でございますが、東京書籍では72ページ、73ページをご覧くださいますと、読み物として、岩手県釜石市の防災教育が取り上げられております。

一方、学研教育みらいでございますが、68ページ、69ページをご覧くださいますでしょうか。こちらには昨年の大雪について掲載されておまして、新しい写真が掲載されていると、選定委員会のほうでも御意見をいただいております。

なお、府の選定資料によりますと、自然災害を扱っている箇所数は、東京書籍9カ所、学研教育みらい8カ所と、ほぼ同数となっております。

続きまして、応急手当につきましては、学研教育みらいのほうは72ページ、73ページに実習として心肺蘇生法等も詳細に掲載されておるところでございます。

東京書籍でございますが、78ページ、79ページに掲載されております。80ページ以降には資料として、心肺蘇生法の手順ということで写真等で詳細に掲載されております。

○委員 自転車のマナー等、交通ルールも含めて、これから指導の対象になってきますので、この辺も加味しながら選ぶ必要があるかと思っております。

また、小中一貫から言えば、体育専門の教員が保健体育を小学生にも教えるという形がこれから増えていくと思えます。この辺の接続についてはどうですか。

○事務局 東京書籍の5ページをご覧くださいますでしょうか。「この章で学習すること」ということで、章の初めに「小学校で習うこと」「中学校で習うこと」が書かれておまして、9年間の系統性につきまして考慮がなされております。

学研教育みらいでございますが、8ページをご覧くださいますでしょうか。こちらも小学校で学習したこと、ここで学習することと書いてございます。同様に小・中の連携につきまして配慮がなされております。

○委員 学研教育みらいも東京書籍も共通して、振り返るみたいな確認問題が増えてますね。東京書籍は特にたくさん増えているんですけど、これは前からそうでしたか。

○事務局 東京書籍のほう「確認の問題」というところでページを割いておまして、調査員からは、問題集の代わりにもなるということで、大変これは有効であるというふうな御意見をいただいております。

○上記の質疑の後、賛成多数で東京書籍採択。

●技術家庭（技術）

答申にある東京書籍、開隆堂の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

東京書籍についてですが、54ページから73ページまで工具の使用方法や作業手順など、基礎的な技能をまとめて掲載し、基礎基本の定着に向けていつでも振り返りやすくなっております。

また、生徒同士で話し合うというような工夫ですが、22ページ「やってみよう」、それから37ページ「生活に活かそう」、それから32ページ「考えてみよう」というように、その他にも「話し合ってみよう」とか、「調べてみよう」というような内容が多く、生徒同士で話し合ったり考えをまとめて文章にしたりする活動が工夫されております。

さらに102ページから105ページですが、ここでは「技術のとびら」として、見開きの両ページにわたって写真を示すなど、興味、関心が持てるように工夫がなされております。

続きまして、開隆堂出版の24ページ、25ページをご覧ください。このように、設計から製作までの手順をPDCAサイクルに沿って図式化し、さまざまな実習において見通しを持って課題解決ができるように取り扱われております。これにつきましては、122ページから125ページにも同じようになされております。

また同様に、考えをまとめたり、生徒同士で話し合ったりするようなことが多く記載されております。例えば22ページ「考えてみよう」、24ページ「思い出してみよう」、
「？」というようなことがあります。

また36ページには、「調べてみよう」というように、考えをまとめ、話し合い、文章にしたりする活動がなされております。

さらに23ページには、「参考」又は「豆知識」というような、生徒に興味を持たせるところが多く工夫されております。

【審議状況】

○委員 調査事項の特記事項に、東京書籍のほうの写真や図が多く見やすいというコメントがございますが、大事なことですので、その辺の補足をお願いしたいと思います。

○事務局 選定委員会におきましても、東京書籍は写真や漫画、図とかが多くわかりやす

いし、一人読みもできるという御意見をいただいております。例えば、東京書籍の6ページ、7ページをご覧くださいませでしょうか。こちらの「技術分野のガイダンス」というところがございますが、例えばリニアモーターカーとか、こういう最新の技術につきまして、写真付で触れられております。

一方、開隆堂出版におきましても、「技術のガイダンス」というところがございまして、年表等で2011年度まで触れられてはいる状況でございますが、選定委員会、調査委員会のほうでは、東京書籍のほうの写真が見やすく分かりやすいという御意見をいただいております。

○委員 情報モラルは本当に大事な事項でございますが、2社を比較して、少しコメントをいただけたらと思います。

○事務局 東京書籍でございますが、206ページ以降に記載がなされてございます。「情報セキュリティ技術を知ろう」という単元でございます。こちらには悪い例が漫画で書かれております。また、特に211ページには、長時間の利用によるネット依存症や、情報の信憑性、学校現場でもトラブルが起りそうなことが丁寧に書かれている状況でございます。

開隆堂出版のほうでございますが、196ページをご覧くださいませでしょうか。こちらのほうも利用するときのモラルということで、肖像権の侵害、個人情報の保護、知的財産の保護等、このページ以降に書かれているところでございます。

○委員 技術家庭の技術部分でいうと、コンピューターの扱いが注目されると思うんですが、どのような状況であるかという。両出版社の比較でお話しいただけるとありがたいんですが。

○事務局 ICTということで、コンピューターの使い方につきまして、東京書籍は260ページから270ページまで、約10ページに渡ってコンピューターの使い方について丁寧に書かれております。教科書を見ながら生徒が学習することもできます。

開隆堂出版でございますが、250から261ページまで、こちらのほうも「コンピューターを利用するとき」ということで、コンピューターの基本操作が丁寧にわかりやすく、自分で教科書を見ながら、こちらでも操作することができるというふうに答申をいただいております。

○上記の質疑の後、賛成多数で東京書籍採択。

●技術家庭（家庭）

答申にある東京書籍、教育図書の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

東京書籍より説明いたします。活動の流れが写真やイラスト等で時系列順に掲示されておりまして、計画的に進めていくということがよくわかるようになっております。例えば6ページ、7ページをご覧くださいますと、計画的に進めていく方法や、家庭科の基礎的、基本的な知識や技能が習得しやすいというような流れになっております。7ページ、14ページ、15ページも参照いただければと思います。

また、54ページをご覧くださいますと、技能が写真やイラストを用いて掲載されておりますので、知識や技能の習得が期待できると考えております。

さらに62ページ、こちらには家庭科の学習で習得した基本的な知識や技能を生かしてできる実習例が随所に掲載されております。ですので、学習したことを日常生活につなげることができることとなっております。

続きまして、教育図書について説明いたします。10ページから15ページをご覧くださいますでしょうか。10ページにありますように、各節の最初に「問題提起」、そして「調べよう」「やってみよう」「実習」「発展」と学習を深めることができるようになっております。

また69ページ、生徒の関心を高める導入として、章の初めに「クイズ」や「やってみよう」が配置されております。

さらに73ページをご覧くださいますと、具体的な事例から「話し合ってみよう」など、様々な班活動を行う契機になる内容が豊富となっております。

【審議状況】

○委員 家庭科の学習というのは、学校だけでなく、やっぱり家でやってこそ意味があると思います。ですから、どのようにして家庭でできるのかという視点が非常に大事なことと思うんですけども、そこら辺はどうなんでしょうか。

○事務局 東京書籍の51ページをご覧くださいますと、一つの例でございますが、「プロに聞く」ということで、フードディレクターの方が実際このような説明をされています。そのほかにも「やってみよう」「実習例」など、課題が随所に掲載されておりまして、生徒

の興味、関心欲を高め、主体的な学びにつながるような工夫がなされております。

教育図書でございますが、64ページをご覧くださいませでしょうか。こちらのほう、「選択」というふうになっておりますけれども、「住みやすい町ってどんな町」ということで、日常生活との関連を深め、興味、関心、意欲を高める工夫がされ、実生活から課題を見つけ、より深く学ぶための工夫があります。特に「選択」では地域について調べる道筋が書かれており、生徒の興味を引く構成となっております。

○委員　　いわゆる入り方から言いますと、東京書籍は食べ物から入っている。教育図書は家族関係から入っております。それぞれに工夫があるのでしょうかけれども、3年間やるわけですから、この辺の違いについて、どう見通すかということ、非常に大事だなと思いついていました。どちらがいいのかよくわかりませんが、その特徴の一つかなというふうに思っています。

○委員　　色々なトラブルが家庭生活を送る中で起こってくるということはあると思います。油断すると騙されるような時代である。こちら辺のケアについては、何か触れていますか。

○事務局　　消費者トラブル等についての記載でございますが、東京書籍は226ページから「消費者としての自覚を持とう」ということで、特に234ページからは、トラブルを解決する方法を考えようということ、具体的な事例をもとに説明がなされているところでございます。

一方、教育図書でございますが、242ページに「狙われている消費者」ということで、掲載がありまして、246ページからは先ほどと同じように解決するにはどうすればいいのかということが、分かりやすく記載がなされております。

○委員　　小・中の関連性はどうなっていますか。

○事務局　　小・中の関連についてでございますが、東京書籍は10ページから11ページのところに、上段が中学校、下段が小学校ということで、小学校の復習についても行われております。

教育図書でございますが、4ページと5ページをご覧くださいませでしょうか。こちらは、小学校での学習を振り返りながら、下段で中学3年間の学習の見通しを持たせ、さらに今後につなげていくイメージを持ちやすいように工夫がなされております。

○委員　　今の時勢、家事については男女関係ありませんし、女子生徒も男子生徒も履修するわけでございますが、男女共修ということにかかわる配慮というような部分については、

この両者の教科書の中で何か特別なことがございましたら教えてください。

○事務局 家庭科でいきますと、教育図書の場合、170ページの「衣服の着用」というところで、必ず男女の写真を載せる配慮もなされているという部分がございます。

東京書籍のほうも、当然、男女共に教科書を使うという学習の中では、そのような配慮はなされておるところでございます。

○上記の質疑の後、賛成多数で教育図書採択。

●英語

答申にある東京書籍、三省堂の2つに絞り、審議を行った。

【説明要旨】

東京書籍につきましては、4技能をバランスよく取り入れ、コミュニケーション能力の基礎を養う内容となっております。また、1年生の131ページをご覧ください。このように、まとめの巻末の「資料編」において、文法事項の復習ができるよう、学習した基本文や基本表現がまとめられております。

さらに25ページをご覧くださいますと、生徒の表現活動が進むように「Tool Box」というものが随所にあり、活動に使える語彙や表現が豊富に示されております。

三省堂につきましても、4技能のバランスを重視した言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力と基礎を養うような内容となっております。また、44ページ、45ページをご覧ください。レッスンごとに、「文法のまとめ」において文法事項や発音などを復習できるような構成となっております。また、自学自習を促すように配慮されております。

さらに124ページ、125ページをご覧くださいませでしょうか。ここがございますように、プレゼンテーションの仕方、発表の基本等が順序立てられていて、発展的につながられております。

【審議状況】

○委員 英語はよくしゃべって、よく聞くものであり、特にヒアリングは重要であると思います。今の中学校の英語の授業を見ると、デジタル教科書をかなり上手に使っていると思うわけですが、今回教科書が変わった場合に、現在使用しているデジタル教科書というのはどうなるのか。もし変わらなくても、そのまま使った場合に整合性は出てきますか。新しく買い替えないといけないものですか。

○事務局 現在中学校では、東京書籍の教科書を使用しております、全中学校にデジタル教科書を入れさせていただいている状況でございます。基本的には今回の検定を通るにあたって、変わっている部分は当然あるかと思っておりますので、丸々それを使うというのは難しいと思っておりますが、重なる部分に関しては、工夫の余地はあるかと思っております。

○委員 デジタル教科書は高価なものですので、簡単に買い替えができるものではないと思うので、今まで使用しているものがそのまま活用できればいいなというふうに思うのですけれども、教科書改訂ですから、当然大きく変わるということはありますので、これからどうしていくかということは大きな課題になってくかなと思っております。

○委員 小学校でも英語活動を取り入れた授業が進んでいるわけですし、いわゆるアクティビティというんですか。言語活動としてペアワークをやったり、グループワークをやったりというようなことがいろいろ取り組まれるわけで、今教科書を見ていたら、東京書籍の教科書の中に、アクティビティという部分を表題にして取り上げてある部分が見えたりなんかするということですが、言語活動の充実に関わって、この東京書籍と三省堂、それぞれのような状況かということを確認させていただきたいです。

○事務局 英語のアクティビティということで、話す、聞く等の活動だと思いますけれども、東京書籍の1年生43ページをご覧くださいませでしょうか。そちらに、「Activity」ということで掲載されておまして、「Unit」というので、基礎の定着、確認を行った後、必ず言語活動としてアクティビティという活動を取り入れることによって、コミュニケーション能力の基礎を養っているところでございます。

一方、三省堂の1年生の94ページをご覧くださいませでしょうか。こちらのほうも「Get」というところで、基礎的な知識、技能の習得を行った後、「Use」というところで活用。実際には、この「Use」においてグループで話し合ったり書いたりする活動を入れ、言語活動の充実が図られているところでございます。

なお、実際に大阪府教育委員会の選定資料によりますと、習ったことを用いて行う英語が19ページにありますが、自己表現活動を取り扱っているページ数といたしましては、東京書籍が46ページ、三省堂が53ページという結果が出ております。

○委員 小・中学校の連携という意味でお尋ねするんですけれども、小学校で色々英語活動をやっているということを受けて、中学校で、その経験を活かす、あるいは連続性を考えてというようなところの配慮がいろいろされているんだろうとは思いますが、この両

者の教科書について、どのような状況であるかということについてお話をいただけませんか。

○事務局 小・中学校の連携ということでございますが、東京書籍の4ページをご覧くださいいただけますでしょうか。そこから「Hi English」というふうになっておりますが、この1年生の入門期パートでは、小学校で習ってきた「Hi Friends」との接続がうまくできるよう、慣れ親しんだ単語や表現を入れるなどして、大変工夫がなされております。

一方、三省堂でございますが、6ページから11ページをご覧くださいいただけますでしょうか。「Get Ready」というところで、小学校との円滑な橋渡しができるように、楽しく表現活動ができるような工夫がなされております。

○委員 自由に会話をするように想定をしながらやっていくと思いますけども、そのときペアやグループでの活動というのが普通されると思いますけども、その辺は全ての子が参加できるような体制というのは、そういう視点からの教科書の編成はどうなっていますか。

○事務局 東京書籍の1年生の24ページ、25ページをご覧くださいいただけますでしょうか。こちらのほうに一つの例でございますが、ペアワークやグループワークなどを通して生徒がさまざまな学習の形態に取り組めるよう、工夫がなされている状況です。

○委員 英語ですから、英語を母国語とするような国々のことが題材として取り上げられることが多いのはよく分かりますが、日本の事柄あるいは日本文化というようなものが、どの程度取り上げられているだろうというのがちょっと興味があるのですが、この2つの出版社に限って結構ですので、どれぐらいの取り上げ方をしているのかというのを教えてください。

○事務局 一つの例としまして、東京書籍の3年生、18ページから21ページでございます。こちらのほうに日本文化の紹介ということで、編集趣意書等には2020年に東京で開催されるオリンピックを見据えて、日本の文化を紹介していく方法も必要ではないかということで取り上げられております。

同様に、三省堂でございますが、3年生の23ページをご覧ください。日本の伝統文化ということで、落語について教科書で取り上げて学習するようになっております。

○上記の質疑の後、賛成多数で東京書籍採択。